

平安京左京八条三坊九町跡 —京都駅前発掘調査—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



コンクリート基礎の間に平安時代の遺構が見える (南東から)

調査の背景 2009年10月から11月にかけて、JR京都駅の北側で発掘調査を実施しました。調査地は下京区烏丸通七条下るの近鉄百貨店跡で、今年11月にオープンした京都ヨドバシビルのあるところです。

調査地は平安京左京八条三坊九町にあたり、周辺には平安時代後期の八条院淳子内親王領、藤原顕隆・顕能の八条町尻第、美福門院得子の御所、平頼盛の屋敷など、貴族の邸宅が建ち並んでいたという記録があります。鎌倉時代から室町時代にかけては東寺領八条院

町となります。また、七条通に沿っては、平安時代から栄えた東市から手工業を中心とした七条町へと移行しています。

このような時代背景を持つことから、遺跡を痛めないために、旧建物のコンクリート基礎を残したまま調査を行なうことにしました。その結果、平安時代前期から中期にかけての池や井戸、平安時代後期の井戸、鎌倉時代の柱穴や井戸、室町時代の建物・溝・井戸・土坑などを検出しました。また、各時代の遺物も良好な状態で出土し、大きな成果を得ました。

平安時代の園池跡 旧建物の基礎と基礎の間で、平安時代前期から中期の池跡が見つかりました。



池の洲浜 (北から)



曲げ物を井戸枠に用いた平安時代の小型の井戸



土師器の皿で埋め尽くされた室町時代の土坑

池跡は東西15m、南北13mの大きさで、深さ30cmの浅い池です。池の汀は緩やかで、こぶし大の川原石を敷き詰め洲浜を形成していますが、庭石は見られませんでした。また、池の導水路が認められないため、地下からの湧水によっ

て池の水がまかなわれていたと思われます。池の中からは墨書土器や石製帯飾り具など、豊富な遺物も出土しています。

鎌倉時代の大型建物 池の上層では鎌倉時代の掘立柱建物跡を検出しました。東西10.5m、南北8

mの大きさで、当時としては大型の建物といえます。柱穴の底部には根石を設置し、柱が沈まないようになっています。これは平安時代の池跡と重複していて、地盤が軟弱だったことによると思われます。

また、平安時代や鎌倉時代の井戸跡も多数見つかりました。現在は相当深く掘らないと水は湧きませんが、これらの井戸の底はどれも浅く、池底と井戸底は同じ深さでした。当時の地下水位は、浅かったことがわかりました。

近代建物の変遷 近鉄百貨店の前身は丸物百貨店で、大正9年(1920)に当地で開店しました。その後、大正15年(1926)に新館、昭和3年(1928)に西側の増築、昭和11年(1936)に南側の増築が行なわれています。調査ではコンクリート基礎の形状から、建物の増築の変遷も知ることができました。

おわりに 平安京の左京域では繰り返し整地が行なわれたことで遺構が重なり合い、複雑になっています。今回の調査もコンクリート基礎を残しながらの調査という、市街地ならではの特殊な発掘調査といえるでしょう。(前田義明)



鎌倉時代の大型建物跡 (南東から)



室町時代の土坑などからみつかった輸入陶磁器